

A large, translucent blue jellyfish is shown against a dark blue background. The jellyfish's bell is at the top, and its long, flowing tentacles extend downwards. The lighting highlights the delicate, gelatinous texture of the jellyfish.

私はクラゲになりたい

チチ松村 著

私はクラグゲになりたい

チチ松村 著

わたしはクラゲになりたい

一九九三年二月一日 初版印刷
一九九三年二月一〇日 初版発行

著者 千千松村

企画・編集 K&K事務所

装丁・写真 沼田元氣

協力 白取千夏雄

発行者 清水 勝

発行所 株式会社河出書房新社

東京都渋谷区千駄ヶ谷二―三二―一

電話 営業 〇三―三四〇四―一二〇一
編集 〇三―三四〇四―八六一一

振替口座(東京) 〇一―〇八〇二

印刷 株式会社享有堂印刷所

製本 小泉製本株式会社

落丁・乱丁本はお取替えいたします

定価はカバー・帯に表示してあります

©1993 Printed in Japan

ISBN4-309-00874-7

千千松村 (ちちまつむら)

一九五四年大阪府生まれ。一九七八年にゴンザレス三上とギター・デュオ「CONTITE」を結成。一九八三年レコードデビュー。以来、西ドイツ、アメリカ等でもレコードが発売され反響を呼ぶ。一九九二年映画『無能の人』で、日本アカデミー賞音楽部門優秀賞を受賞。音楽活動のかたわら、各雑誌にエッセイなどを執筆中。著書に『それゆけ茶人』がある。

私はクラゲになりたい

チチ松村 著

献辞

この本を

愛する子供達へ捧ぐ!!

父はクラゲが大好きです。

もし私がクラゲになって

消えてしまっても、決して

捜さないで下さい。

目次

一九九〇年——クラゲに出会った日

七

一九九一年——クラゲと暮らす日々

五三

一九九二年——クラゲと悩む日々

六七

一九九三年——クラゲになった日

八三

あとがき

二〇四

一九九〇年——クラゲに出会った日

最初にクラゲを美しいなと思ったのは、やはり須磨の水族館であつた。その時はウニにも感動した。あの黒いトゲトゲの中心部に青く光る宝石のようなものを見つけたからだ。あれから何年もたつて、自分の生き方の決断力のなさに、びつくりし、あきれ、そしてあきらめ、やがて正当化するために、風に流されて生きることに（これすなわち風流と呼ぶ）に行き着いた。そして、世の中を生きてゆく上で大事でないことをオモシロがる心（これすなわち眼力と呼ぶ）を身につけようと欲する。そしてその眼力をいかになく發揮していた昔の茶人に魅せられ、現代の茶人をめざす。

そんな時、再会した須磨の水族園（名前が変わつた）のクラゲの姿にまさに自分の姿を見た。これは絶対に家に来てもらわねばという気持ちだが、どんどんどんどんふくれあがり、いてもたつてもいられなくなった。まずは自分が会員でもある長居の自然史博物館に聞くことにした。

電話の内容。

「もしもし、ちよつとおたずねしたいことがあります」
「はい、どのようなことですか？」

一、須磨の水族館——神戸市立海浜水族園。海遊館ができるまでは大阪から一番近い水族館だつた。昭和六二年七月一六日にリニューアルし、きれいになつて、名前も変わったが、昔のほうが僕好みであつた。クラゲ、イルカ、ラッコなどがいる。兵庫県神戸市須磨区若宮町一—三—五にある。TEL 078—731—7301

二、長居の自然史博物館——大阪の東住吉区長居公園にある大阪市立自然史博物館。ちよつと前まで、ここの友の会の会員であつた。モモトマメゾウムシの同定をしてもらい、それを寄贈した。

「実はクラゲを家で飼いたいのですが、できるでしょうか？」

「はあ？　ちよっとお待ち下さい」

「……」

「もしもし、今日は無脊椎動物の担当の者が休んでいてわからないのです。また明日電話していただけたら担当の者がおりますので」

「はい、わかりました。どうも、さようなら」

そして次の日、

「もしもし、きのう、クラゲのことで電話した者ですが」

「はい、少々お待ち下さい」

「……」

「もしもし、お電話代わりしましたけど」

「ああ、もしもし、あのう、クラゲを家で飼いたいのですが、どうすればいいのでしょうか？」

「そうですね、こちらでもクラゲは飼ったことがないのですが、飼えないことはないと思います。温度を上げすぎないことと、エサはアルテミア^三をやることです」

三、無脊椎動物——昆虫類を含む節足動物、イカ、タコなどを含む軟体動物、ウニ、ヒトデ、ナマコなどを含む棘皮動物など体内に脊椎を終生持たない動物の総称。

四、アルテミア——別名ブラインシュリンプ。

「今まで熱帯魚も飼ったことがないので、なにもわからないのです。水槽などはどんなものがよいのでしょうか？」

「そうですね、具体的な物となると、こちらも飼ったことがないのでわかりませんが、須磨の水族園で聞かれた方がよくわかると思います。あそこはクラゲを飼っていますから」

「そうですね、僕もあそこを見て、ほしいと思ったんですよ。

じゃあ、向こうで聞いてみます。どうもありがとうございました」というわけで、具体的にはわからなかったので、須磨の水族園に聞くことにした。そして電話をする。

「もしもし、ちょっとおたずねしたいことがあるのですが!!」

「はい、どのようなことですか？」

「そちらでクラゲを見まして、自分の家でも飼いたいのですがどうすれば飼えるでしょうか？」

「あいにく、クラゲの係の武田が今日は休んでいまして、また、日をあらためておかけ下さい」

「は、はあ、そうですね、わかりました」

須磨もクラゲの係の人が休みで、どうもうまくいかない。そこ

塩田や塩湖に繁殖する小型甲殻類で、熱帯魚、海産魚類などの稚魚の餌として用いられる。熱帯魚店で売っている卵（耐久卵）を海水に入れると一〇〜一二時間でふ化する。ふ化直後の体長〇・四ミリ、成体八〜一〇ミリ。節足動物甲殻綱ホウネンエビ目アルテミア科。

で僕の知り合いの変人、弘中さん^五に電話することにした。彼は熱帯魚をたくさん飼っていて、その道ではかなりうるさい方であった。

「もしもし、弘中さん、松村です」

「おお、どうした、元気か？」

「実は僕、魚を飼いたいのですが、水槽とかその他の設備のこととか教えてほしいのですが？」

「いいよ、で、物は何？ 何を飼いたいの？」

「それがねえ、クラゲなんですよ」

「……………クラゲか……………松村……………そうか……………」

「弘中さん、飼うことができるんでしょうか？」

「よし、一度詳しい人に聞いといてあげよう」

「じゃ、よろしくお願いします」

これで設備の方は、弘中さんにまかせればよいことになった。そして次の日、須磨の水族園に電話をした。

「もしもし、きのう、クラゲのことで電話した者ですが、武田さんはいらっしゃいますか？」

五 弘中さん——弘中一道さんは僕の学生の時の先輩で、今までの人生においてもっとも影響された人である。エピソードはつきない。

「はい、少々お待ち下さい」

この間五分ぐらい、電話の向こうのアナウンスで武田さんと呼ぶ声が響いている。

「もしもし、武田ですけど」

「ああ、どうもはじめまして、実は私、一般の市民なんですけど、そちらでクラゲを見まして大変感動したんです。そして自分でも飼いたいと思うんですけど、僕らでも飼えるんでしょうか？」

「はあ、飼おうと思えば飼えますけど、大変ですよ」

「そうですか、飼えるんですね。水槽はどんなものがいいのでしょうか？」

「それはどんなものでもいいですが、クラゲがフィルター＊に吸い込まれないように半円形に水槽内を区切らないとだめなんです。口で説明しにくいですが水族園で見られたでしょう」

「ちよつとそこまで見てませんでした。で、水温はどのくらいで？」

「そうですね、高くなるとだめです。三〇℃をこえると体の形がとけて変わってくるのです。低いのは一五℃ぐらいまで大丈夫で



フィルター

＊、フィルター——水を循環、浄化する装置。
きたない水を吸い込む口ときれいな水をはき出す口がある（右図参照）。

す」

「そうですか。ではエサはどうですか？」

「えさはアルテミアです。プラインシュリンプといわれるもので、乾燥したものを、海水に入れ、二五℃ぐらゐの温度を保ち、エアレーションして二、三日すると、生きて動き出すのです。それを毎日一回与えます。ミズクラゲの口は傘の内側の四つの紋で、それが赤くなれば食べたということですよ」

「そうですか、わかりました、で、寿命はどれくらいなんでしょう？」

「一年です」

「えっ、一年で死ぬんですか……」

武田さんは初めのうちは、冷たそうなしやべり方をしておられたが、僕があまりにいつしうけんめいに聞くのでだんだん力が入ってきて、親切になってきているようだった。

「それで、問題のクラゲなんです、須磨の海岸に行けば採れますかねえ？」

「うちは春先にヨットハーバーのところで採った奴から子供を産

せ、エアレーション——空気を水の中に送り込み、酸素を供給する、いわゆるブクブクと呼ばれるもの。

へ、ミズクラゲ——日本近海どこにでもいるクラゲ。五月ごろから十一月ごろまで姿が見られる。口腕は四本でよく発達する。傘はふつう直径一〇〜一五センチ、三〇センチくらいに成長するものもある。傘には四つの紋のようなものが見られるためヨツメクラゲともいわれるが、紋の正体は四つの生殖腺下腔。刺胞動物鉢虫綱ミズクラゲ目ミズクラゲ科に属する。学名オレーリア・オリータ、英名ムーン・ジェリーフィッシュ（月のクラゲ）。クラゲはミズクラゲにはじまりミズクラゲで終わると思う（左図参照）。



ませ、だんだん大きくしていつているのです。でも今九月ですから、いたとしても大きくて形のくずれた奴ばかりですよ」

「じゃ、日本海の方へ行けばおりますか？」

「さあ、ミズクラゲがいるかどうかはわかりませんね。春から夏がいちばん多いですからねえ」

「そうか、それじゃどうしようかなあ？」

「もしよかつたら、うちのあげますけど」

「えゝつ、本当ですか？ いいんですか？ お金出しますけど」

「いや、そんなものいらないます。あげますよ!!」

「それはもう本当にありがとうございます。設備が全部調いしだい、またお電話します。えっと、私、松村といいます。ではその時よろしく願います」

僕は電話を切った後、喜びに打ち震えていた。武田さんもクラゲのことあんなに聞かれたのは初めてだったのだろう。それでちよつとうれしかったのかもしれない。

二日くらいして弘中さんから電話があり、水槽がおける幅、高さ、奥行きと、ろ過装置の場所などの確認があつて、それらを買

ろ過装置——水をきれいにする浄化装置。